

書は人なり

タイトル 井口 湖山書

～その人の持ち味が出る“書”を大切に～

文字を使って伝えるというのは人間だけに備わったすばらしい手段です。今や文字の種類、書く手段が世の中にあふれかえっています。文字の大事なことはみんなに伝えることで、誰でも分かる字で表すことが必要です。最近では手書文字を見る機会も減っていますが、自分の気持ちを伝えるためには、手書きに勝るものはありません。そこで、今回はきらめき講座「書の教室」の講師、井口 湖山さんに“書”についてお聞きしました。

■漢字や仮名の歴史

文字の発祥は4000年以上前の中国で、収穫や気候を占ったり祈禱するのに、亀の甲羅や獣骨に“線”を刻みつけて表したのが始まりのようです。その後、鉄器や銅器などが*い* 鑄こまれるようになり、その表面に線より装飾的な文字らしき模様が描かれていました。

やがて戦乱の世になり、群雄割拠の時代をまとめるために秦の始皇帝がまず文字や度量衡（長さや重さの基準）、貨幣の統一をしました。いろいろな書き方のあった文字を簡略化し、共通文字としてあちこちの山に彫りました（始皇七刻石）。始皇帝みずからの業績を示し、威厳を高

め、広範囲に知らしめようとしたのが文字普及の最初のことです。このころの文字は縦長の篆書体（大篆）でしたが、その後、分かりやすく簡略化した小篆が完成しました。書体というのはある日突然できるのではなく、人々の生活の中で少しずつ変化していったと思われま。前漢には篆書から隷書への移行が進み、後漢の時代には、草書、行書、楷書が出そろいました。日本はまだ弥生時代のこと。古墳、飛鳥、奈良時代にやっと、それらの漢字が印文や文書などで日本に伝わったのです。

■日本独自の变遷

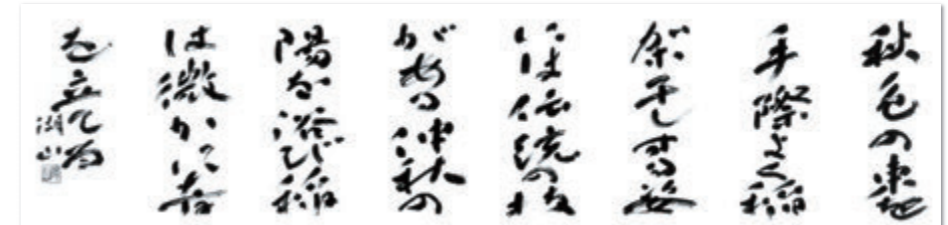
日本には独自の文字がありません

でした。ただ、日本人は物まねや想像力がたくましいので、ほかにないものを創造したのが“かな”です。万葉集の歌などを、中国から伝わった隷書、草書、行書、楷書の音を当てはめて書いたのですが、長くなるので何か良い方法はないかと模索していました。当時、漢字や漢詩は男性の教養で、女性はそれを使って教養を表に出すことができませんでした。そこで、草書をもっと崩して草仮名を作り、源氏物語や枕草子などが書かれました。さらに、土佐日記で紀貫之が使い始め、便利がいいというので男性も使うようになりました。草仮名や変体仮名は中国や朝鮮にない日本独自のものです。



井口 和子（号：湖山）「きらめき講座」書の教室 講師

1941年京都府生まれ
奈良教育大学大学院修士課程修了
日展会友・京都書作家協会参与
読売書法会理事 日本書芸院一科審査員
1966年～2012年 日展入選 12回
2013年 第29回読売書法展において読売新聞社賞受賞



第44回日展(2012)入選

実り 井口湖山

■書の芸術性

随や唐の時代になって、上手な書き手（手師）が出てきます。晋時代に書の芸術性を高めた王羲之が現れました。唐の太宗皇帝が王羲之を大層好み、多くの書き手を集めて王羲之の臨書（真似て書くこと）をさせ、コピー本がたくさん作られました。王羲之が書いた有名な書、蘭亭序（名士を蘭亭に会して曲水の宴をしたときに作った詩集の序文）もその一つで、真筆の蘭亭序は王羲之を愛した太宗が自分の墓と一緒に埋葬させたため、今ではコピー本しかないといわれています。

唐の半ばから終わりごろにかけて、唐の屈指の忠臣でもある顔真卿や、宋の時代には官吏であり文人である、書を教養とした個性ある字を書く人たちが現れてきます。

日本では武家社会になり、優雅な仮名より気骨のある字が好まれ、お家流の源流のようなものが公文書に使われるようになってきます。それに飽き足らない良寛や本阿弥光悦ら

は江戸時代に独自の作品を作り、文人になっています。

■誰でも美文字が書ける、書く心得と崩し方

まず鉛筆は少し倒して、筆はまっすぐに立てて持ちます。正しく持てば楽に書けます。大きい筆は肘を上げて、小さい筆は不安定なら肘をつけてもかまいません。それに伴って自然に体の幅くらいに足を開いて、無理なく書きます。筆順を正しく覚えていれば格好よく書けますし、うまく崩せます。たとえば、右は上から左下に払い、左は左から右へ直線を書けば一筆で書けます。

次に臨書がとても大事です。先生の手本でも、古典や古筆でも、いい書をまねて書きます。自分の字と見比べて、いいと納得したところを取り入れていくと、自分の字が逃げ

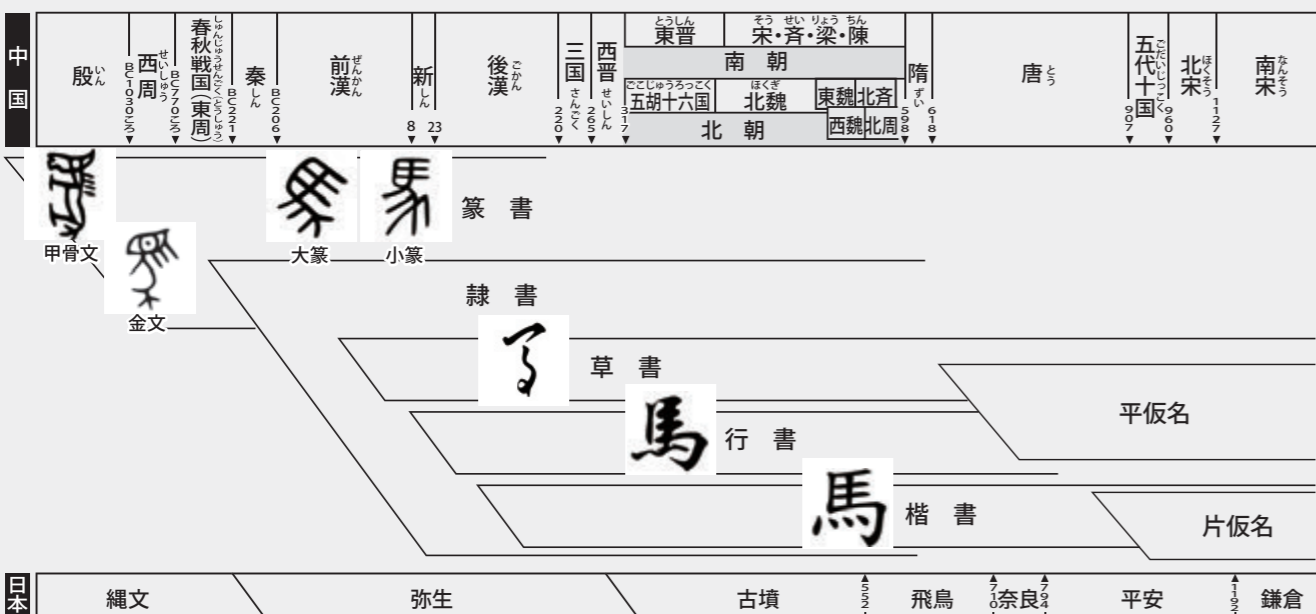
ずにいい字になっていきます。それと変なくせは素直に直していきましょう。

■文字を手書きすることのよさ

パソコン時代ですが手書きも大事なので、用途に応じて両輪でやっていくほうがいいと思います。字を書く機会が減っている時代だからこそ、ぜひ日頃から字を書くことを心がけてください。手書きには存在感があり、空間の取り方で違った雰囲気が出てきます。また、書は心身に多くのよい影響を与えます。“見ること”“腕を動かすこと”“頭を使うこと”など、書をするという動作そのものが心身全体の活性化に効果があるようです。写経なども集中力が養え、持続性も鍛えられるようです。たとえば、サッカーで優秀な成績を修めている東福岡高校では書道に力を入れて成果を上げておられます。

文字を書けるのは人間だけです。恥ずかしいと言わずにやってみる。文字を書くと表現が豊かになり、楽しい気持ちになってきます。人間ならばこそその芸術である書道を通して、日々の気持ちを豊かにしてみましょ。

漢字・仮名の移り変わり



筆の持ち方



鉛筆の持ち方